

# 石巻市民に多い名字ランキング ベスト30

表の見方「石巻の順位名字」[ ]:石巻の人数 [ ]:石巻の割合 [ ]:全国順位名字 ※全国順位は名字由来netより引用

1位	阿部	12,018	8.69%	佐藤
2位	佐藤	7,678	5.55%	鈴木
3位	高橋	5,935	4.29%	高橋
4位	佐々木	5,100	3.69%	田中
5位	鈴木	3,817	2.76%	伊藤
6位	木村	3,427	2.48%	渡辺
7位	千葉	3,159	2.28%	山本
8位	遠藤	2,790	2.02%	中村
9位	三浦	2,338	1.69%	小林
10位	伊藤	2,052	1.48%	加藤
11位	今野	1,844	1.33%	吉田
12位	齋藤	1,715	1.24%	山田
13位	武山	1,574	1.14%	佐々木
14位	及川	1,321	0.95%	山回
15位	平塚	1,228	0.89%	松本
16位	高橋	1,209	0.87%	井上
17位	日野	1,066	0.77%	木村
18位	後藤	1,014	0.73%	林
19位	小野寺	917	0.66%	斎藤
20位	菅原	897	0.65%	清水
21位	吉田	892	0.64%	山崎
22位	亀山	853	0.62%	森
23位	相澤	837	0.60%	池田
24位	内海	797	0.58%	橋本
25位	松川	796	0.58%	阿部
26位	菊地	735	0.53%	石川
27位	山内	723	0.52%	山下
28位	杉山	711	0.51%	中島
29位	津田	649	0.47%	石井
30位	小山	642	0.46%	小川

2022年2月末時点の石巻市人口 138,348人

※石巻の名字は2022年2月末現在の石巻市(全人口138,348人)住民基本台帳に基づき集計した結果です。漢字別の集計となり、例えば、高橋と高橋は別集計。おやま(小山)とこやま(小山)は同一集計となります。

多くの人が持つものから珍しいものまで。多様な「名字」は自分の体の一部と言っても良いほどに身近なものです。皆さんはその由来を考えたいことはありませんか？名字のルーツは、読者の皆さんがこの地域に住んでいる理由を教えてくださいませんか。

まずは、2022年2月末現在の石巻市の住民基本台帳に基づき集計した名字ランキングをご覧ください。堂々の1位は「阿部さん」です。2位の佐藤さんを圧倒して、全人口の約8・7%が阿部さんという結果。なんだっちゃん！編集部がある石巻日日新聞社には社員21人がいますが、そのうち2人が阿部さん。石巻ではおよそ10人に1人が阿部さんと考えられると、弊社でもまさにその通りの結果になります。

職場や学校にいる身近な阿部さんを思い浮かべてください。名前はごう呼んでいいますか？編集部では、重複を避けるため「直人さん！」や「あべけんさん」と下の名前やニックネームで呼んでいきます。阿部さんが多い石巻ならではの「呼び方対応」かもしれません。しかし、全国順位を見てみると、阿部さんは25位と、1位の佐藤さんのずっと下位になることから「全国」と比べると石巻は阿部さん比率が高いまじいということが言えそうです。ちなみに女川町では1位阿部さん、2位木村さん、3位鈴木さん(女川町)住民基本台帳集計・3月24日時点という結果です。

また、佐藤さんは全国1位、石巻2位、鈴木さんは全国2位、石巻5位といずれも上位にランクイン。一方、全国4位の田中さんは石巻ではランク外という結果。全国的には多いものの、石巻では珍しい名字も存在することがわかります。石巻に分布する名字は「地域性」と「全国性」の両方が見られるということが言えそうです。

※名字の全国順位は名字由来net調べ



## 巻頭特集

# 阿部さんが多いワケ

## 石巻の多い名字ランキング公開

たくさんの出会いが生まれる新年度。春の新生活で、新しい友だちや同僚ができた人も多いはず。中学や高校に入学したばかりの新生や、新転地で仕事を始めた社会人の皆さんは徐々に新たな暮らしに慣れてきたでしょうか？そろそろ、友達や同僚の顔と名前は一致しましたか？今回は、転勤で石巻にやってきたばかりの人にもオススメしたい石巻地域の「名字」の特徴を紹介。学校や会社、家族と話題のネタにして地域を知るきっかけにしてください。



### 名字に見る地域性

多くの人が持つものから珍しいものまで。多様な「名字」は自分の体の一部と言っても良いほどに身近なものです。皆さんはその由来を考えたいことはありませんか？名字のルーツは、読者の皆さんがこの地域に住んでいる理由を教えてくださいませんか。

まずは、2022年2月末現在の石巻市の住民基本台帳に基づき集計した名字ランキングをご覧ください。堂々の1位は「阿部さん」です。2位の佐藤さんを圧倒して、全人口の約8・7%が阿部さんという結果。なんだっちゃん！編集部がある石巻日日新聞社には社員21人がいますが、そのうち2人が阿部さん。石巻ではおよそ10人に1人が阿部さんと考えられると、弊社でもまさにその通りの結果になります。

職場や学校にいる身近な阿部さんを思い浮かべてください。名前はごう呼んでいいますか？編集部では、重複を避



ある地域でたくさん見かける名字に覚えはありませんか？例えば、渡波地区の内海さんにも由来があります。この地の最初の住人となったのは、

### 渡波の内海さん

尾張国(愛知県)野間内海(知多半島)から移住してきた佐々木肥後と甚左衛門でした。2人による町の開発は急速な勢いで進められ、家の数も順調に増加。2人が世を去る頃までには、集落としての姿が整うまでになっていました。肥後の息子は流留村との境堀に架かる肥後橋(後生橋)を渡したことが記録されています。また、彼らの子孫たちは出身地の「内海」の名字を名乗り現在に至ります。

### 湊の八皇子

石巻市湊地区には後醍醐天皇の皇子で鎌倉幕府の打倒に功績を挙げた護良親王の伝説があります。歴史上、護良親王は中先代の乱(1335年)の動乱において殺害(太平落)されていますが、実は湊に落ち延びて湊の地で暮らした



「貞任」の名前が見られる前九年絵巻物  
出典:「前九年絵巻物」(国立国会図書館)  
(<https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/2573531/42>)をトリミングして作成

### 江戸時代まで多い阿部さん

それではなぜ、石巻には阿部さんが多いのでしょうか。その理由を追ってみると東北が戦争の時代だった平安時代の後期まで話はさかのぼります。この頃、岩手県北流川中流域に勢力を誇っていたのが安倍頼時・貞任の一族です。ここで「あべさん」が登場します。朝廷に反抗したその安倍一族と鎮守府將軍・源頼義の戦いが前九年合戦(1056年~1062年)で、宮城県北から岩手県にかけて戦場となりました。安倍一族は敗戦しますが、その勢力は登米・牡鹿郡にも及んでいたことが古い書物に登場する名前から推定されています。

ちなみに、安倍氏のあとを受けて奥六郡を領有していた清原氏の一族の争いに源頼義の子の八幡太郎義家が介入して引き起こした戦いが後三年合戦です。この時、清原氏の一族として残った清衡が奥州藤原氏の初代になります。



江戸時代まで話を進めてみましょう。各村の人口や広さ、名産や伝承などをまとめた「安永風土記」(1773年)のぞいてみると、多くの阿部さんが登場します。

渡波町の阿部三十郎、阿部甚吉、阿部与左衛門、阿部与十郎、流留村の阿部丹後、阿部長次郎、浦宿村の阿部十右衛門、阿部長右衛門、真野村の阿部尾張など、先祖代々の名前も記録されており、多くが7代、9代と続く家で、中には16代相続などという名前も見当たります。

つまり、江戸時代から阿部さんは石巻にたくさん見られ、その頃からさかのぼって

## 歴史に残る身近な名字

と伝わります。親王にはお供した臣下が存在していたとされ「日野、日下、比羅塚、福原、志摩、遠山、岡本、刈込」の8人を八皇子と称したと伝わっています。(石巻市湊鎮座一皇子宮御鎮座の由来と御神徳より)。親王が亡くなった後、親王を奉ったのが「いづおんつあん」の名前で地域に親しまれる「一皇子神社」であるとされています。

### 蛇田の開拓団

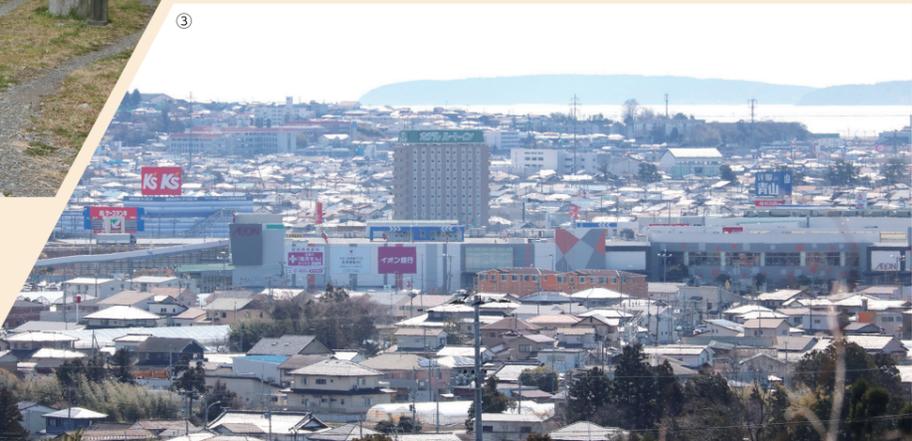
新市街地が整備され、商業店舗が立ち並び蛇田地区にもなじみ深い名字があります。これにも理由があるようです。それが、1646年、伊具郡小斎村(現・丸森町)から蛇田に足を踏み入れた佐藤定信の開拓団に由来するものです。伊達忠宗から新田開発の申し出が許可された佐藤定

信は蛇田の野谷地を拝領。蛇田に移住することになりましたが、この時、率いた開拓団は「三戸、森、高瀬」の重臣をはじめ、「斎藤、星、伏見、氏家、太田、遠藤、小川、伊藤」など侍40人、足軽33人、計73人の家中とその家族でした。蛇田在住でこれらの名字の人は子孫や関係が深い人もみられませんよ。

【参考文献】  
◇石巻の歴史第一巻、第二巻



①渡波に移住した佐々木肥後の息子は「肥後橋」を架橋。肥後橋は架け替えられ「後生橋」と名前を改めたと伝わっています(後生橋地区) ②8人の臣下と共に湊へやってきた護良親王を奉ったと伝わる湊の一皇子大明神の赤い鳥居 ③約380年前、現在の丸森町からやってきた開拓団が開発をはじめた蛇田では現在、たくさんのお店が立ち並びます(石巻市須江より撮影)



も10代近く続く家系があるということになり。安倍一族の大きな勢力下にあったことや、前九年合戦の影響が石巻地域に及んでいた可能性が大きいと考えられます。石巻市の郷土史家・邊見清二さんは「安倍一族のうち一部は逃れて、本吉郡や各地に落ち延び、今、阿部を名乗っているのはその末裔と考えられます」と教えてくれました。安倍一族が誇った勢力や、前九年合戦の影響の名残が今の石巻地域に残っているとさえいえます。

